

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873000053		
法人名	株式会社いっしん		
事業所名	グループホームいっしん館いなり		
所在地	茨城県かすみがうら市下稲吉1668-6		
自己評価作成日	平成22年2月3日	評価結果市町村受理日	平成22年7月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2		
訪問調査日	平成22年3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域ボランティアさんに協力いただくなど、ホーム外の方々との交流に力を入れている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は幹線道路から少し離れた静かな住宅街に位置する。梨畑が隣接しており、利用者は季節の移り変わりを肌で感じながら日々の生活を送っている。 職員は、利用者が事業所の外に出る機会を多く設け、またフットケアを実施することで気持ちよく利用者の活動性を高め、自然に体を動かすことができるよう取り組んでいる。 今後も、家族と地域との連携を図りながら、利用者が生活しやすい環境作りが期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営規定基本理念・決め事十則・館独自の理念を掲げ共有している。	法人全体の理念と共に、職員からでた意見をまとめて事業所独自の理念を掲げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	学校や近隣での催しに積極的に参加したり、地域のボランティアさんを受け入れるなどして交流している。散歩や外出時、近所の方と日常的に挨拶を交わしている。	地域の祭りへの参加や地域のボランティア(日本舞踊)の発表会などに招待してもらい、そこからまた交流の輪が広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ヘルパー養成講座からの施設実習を受け入れている。また、実習後も気軽に来館できるようにお声掛けをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・ご家族を交えて2ヶ月に1回開催し、館内の状況報告や意見交換を行っている。	定期的な開催により、地域の参加者や家族から意見が寄せられている。また、普段の様子やイベント時の利用者の様子がわかりやすいように、写真での説明を行なうなど工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者には日頃から事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えており関係を築いている。また、介護相談員を通しての情報提供も行われている。	毎月の介護相談員の訪問で馴染みの関係ができており、訪問時の日誌など細やかである。また、小中学校との交流も盛んに行なわれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を掲げている。目配り、気配りを徹底し、身体拘束の無いケアを全スタッフが理解している。また、定期的にミーティングを行い意識を高めている。	身体拘束に関するマニュアルの整備を行い、職員の教育にも熱心である。また、家族との話し合いも行なわれ、身体拘束をしないで行なえるケアの方法を見いだしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングを行い人生の先輩と認識し業務に携わっている。また、申し送りなどを活用し細かく状況が分かるようにしている。		

茨城県 グループホームいっしん館いなり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当事業所には成年後見人となっている利用者もいる為、職員全員が学習している。また、外部での研修に積極的に参加し、職員同士で情報交換をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際は、ご家族に十分納得のいく説明をした上で同意を得ている。相談は随時受付けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望は直ぐに取り入れ運営に反映させている。ホームに対してのアンケートを実施しており、率直な意見を反映させている。	利用者に日々の生活の希望を聴いている。意見箱の設置や、意見等が言える関係、環境作りに配慮している。さらに、介護計画を送付する際に、意見がもらえるように工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事採用に関しては本社に一任しているが、利用者の受け入れ継続の可否等はスタッフの意見も取り入れている。	主任ミーティング、ユニットミーティング、全体ミーティングなどそれぞれに意見交換の場があり、また、管理者等は職員が働きやすい環境作りの為の意見やアイデアを引き出せるよう、言葉をかけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の勤務状況を把握し、日頃から相談に乗れるような状況を作っている。各自が向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内全体で講師を招いて多彩な内容で社内研修を行っている。参加出来なかった職員も配布されるDVDで確認できる。外部研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との介護交流会などにも積極的に参加し、同業者と意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話された内容をアセスメント様式により利用者の状況や要望を把握し個別支援計画を適切に作成している。そのため、1対1で会話できる状況を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ユニット入口にご意見箱を設置し、気軽に意見を出して頂けるようになっている。電話や面会等に話せる時間を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時には、一人ひとりにあったサービスを受けられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩だと認識し、昔の慣わしや料理等を教えてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあれば家族へ報告・連絡・相談をしている。行事や一泊旅行などに参加して頂けるように声をかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人より希望があれば、馴染みの人に電話や手紙を出している。合いたいという時には一緒に外出できるようにしている。	以前利用していた施設の職員が訪ねてきたり、行事に参加したりできるよう配慮している。また、持ち家の状態を見たいという利用者の希望をかなえた事例があった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員も輪の中に入り自然とコミュニケーションが取れている。世話役の方に出る限り役割を發揮して頂けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事情により退去になってしまったご家族等には近くに来た時には立ち寄って頂けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの話を傾聴し本人の希望を聞き把握している。意思表示が困難な方にもその人らしい生活が送れるように支援している。	普段からの利用者の様子や、重度化する前からの生活歴を大切に、家族との連携をとりながら思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全スタッフが利用者それぞれの生活習慣にあつた支援を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録・申し送り帳・業務日誌を活用しスタッフは毎日業務に入る前にその日の入居者様の状態を確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、ご家族の意見を取り入れ、より良い生活を送る為に介護計画を作成している。他に気付いた点はその都度話し合い、反映させている。	一人の利用者に2名担当職員が付き、アセスメントを行い、介護計画を行なっている。また、毎月のミーティング時にモニタリングを行い、日々の様子や今後の課題を明確にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中・夜間の様子をケース記録に記入し必要な点は申し送りノート・業務日誌に記入し報告している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホーム・有料老人ホーム・高齢者専用住宅の三本柱になっており、利用者の身体状況に応じて利用する施設を選択している。		

茨城県 グループホームいっしん館いなり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の介護相談員が月1に来館され助言して頂いている。中学校の生徒さんの実習の場として提供したり、ボランティアさんの受け入れもしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必ず利用者、ご家族の希望を確認した上でその時々の状態に合わせた医療機関を受診できるよう支援している。	協力医療機関や専門医の定期的な往診がある。さらに、24時間緊急対応可能な協力医療機関との連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な往診、訪問看護にて相談している。訪問看護師や協力医療機関とはいつでも連絡がとれる体制である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	こまめな面会を心掛けており、担当医やナースに常態の確認を行い、早期退院に向けて連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より、こまめにご家族と話し合いの機会を持っている。重度化・状況によって医師、ご家族と相談し、最善の方法を取るように全スタッフで話し合いながらチームケアに取り組んでいる。。	社内研修などを通して終末期に向けた介護の学びを深めている。現段階で事業所内で見取りを経験したことはないが、利用者や家族との話し合いを持ちながら実現したいと考えている。	生活介護で支えられる、現段階で提供できる援助の線引きを明確にし、さらに安心した環境下での終末期ケアができることが望まれる。マニュアルなど書式の整備を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基本的なことは入社時に教育している。また、全スタッフ救命救急の講習を受け急変に備えている。マニュアルは目の届く所に置いてある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行い、そのうち1回は消防署の立合いのもと夜間や地震時など、想定を変えながら行っている。	避難訓練を継続的に行っており、避難経路の確認や2F利用者の搬送方法などを検討し、避難の時間短縮もできている。また、非常食などの必要物品も揃えている。	今後は、地域との連携を更に深め、お互いの協力体制を作っていくことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの生活スタイルに合わせて、時には立ち入りすぎないように配慮している。	同姓の介護を基本とし、利用者のプライバシーの確保に配慮しており、言葉使いにも注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの話を聞き、信頼関係を築くとともに意見を尊重して決定権は利用者へするようにしている。困難な場合は助言しながら決定出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせている。季節の慣わしなども取り入れ、その人の希望に沿わせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人にも鏡を見て頂くように支援している。移動理容室を利用したり好みで館外の理・美容室を利用したりと希望に応じている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作りに利用者のリクエストを入れている。出来る方へは準備、片付けの役割を決めて手伝って頂いている。	利用者の嚥下状態に合わせた食事の形態の工夫や、メニューや味付けなど利用者の意見を積極的に取り入れ、毎日の食事が楽しみなものになるよう配慮されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を栄養士の方に見てもらい指導を受けている。また、水分・食事摂取量チェック表にて把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回食後に口腔ケアを行っている。困難な方にはスタッフ介助のもと行っている。月2～3回しか往診で見て頂き指導を受けている。		

茨城県 グループホームいっしん館いなり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人に合った排泄パターンを把握して支援している。トイレの場所が分かるように明示してある。	排泄時間の把握をし、誘導を行っていくことでパットやおむつではなくトイレでの排泄が可能になった事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事を工夫し、食物繊維の多い食品や寒天を1日1回は食べ、なるべく薬に頼らない工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に応じ、好きな時間に入って頂く。季節に応じてゆず湯やしょうぶ湯などを入れている。	入浴拒否のある利用者には入浴後の楽しみを作り、入浴回数が増えた事例がある。また、フットケアを取り入れ、リラックスできる時間の提供をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝・起床時間はそれぞれに合わせて設定している。また、温度・湿度管理に注意して休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全スタッフが薬の内容を理解し、指示通り服薬出来るよう努めている。また、服薬介助の方法もそれぞれに合わせた方法で行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が洗濯物畳み、掃除など役割を持つように支援している。レクリエーションや季節の行事などの楽しみも多く取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外への散歩、ドライブに行ったりと外へ多く行くようにし、季節感を味わって頂けるよう支援している。年に一度一泊旅行を計画して行っており、ご家族様もお誘いしている。	利用者とその家族を対象とした一泊旅行があり、楽しそうな様子が写真に残されていた。また、外に行く機会を多く持てるよう配慮している。	

茨城県 グループホームいっしん館いなり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理できる方にはして頂いている。一緒に買い物に出掛け、好きな物を購入する支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には声を掛けて頂き、友人や家族に電話をする支援をしたり、手紙は自由に出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの壁や家具は暖かみのある木目調を中心に揃えてあり、居室は使い慣れた馴染みの物を持ち込んで頂いている。	室内だけではなく、庭にベンチやテーブルを置き、利用者が寛げる空間作りを行なっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにも食事テーブルやソファ、和室などが整備されており、好みの場所で思い思いに好きな様に過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や仏壇も持ち込んで頂いており、ご自分の生活や好みに合わせ、和室にも洋室にも変更出来るようになっている。	利用者や家族が大切にしてきた物や、趣味のものが多く置かれ、生活感のある空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の生活レベルに合わせた環境作りをしている。居室に手すりやトイレを設置したり、その方のレベルによってエレベーター・階段・スロープ等の使用を選んで頂くなどの自立支援に努めている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	職員の介護経験等に差が見られるので、現段階から先を見据えた支援・方針作りや教育が必要。	本人や家族が、安心した終末期を後れるように、話し合いの場を積極的に設ける。又、入居者個々の現状と状態を、医療機関や家族と共有し適切なケアを行っていく。	その方を取り巻く環境によって、異なる為マニュアル化は行わないが、施設としての方向性は定めておく。	6ヶ月
2	35	館単位では、年2回避難訓練は実施しているが、地域の方の参加や告知が出来ていない。	災害発生時に近隣の方々の協力が得られる環境作り。	館として、地域イベント等への積極的参加を図る。又、地域運営推進会議を通し館の状況を地域の方々に知っていただき自主避難訓練にも、参加していただく。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。